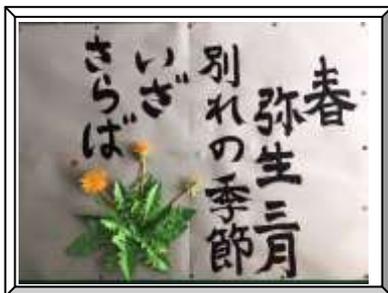


# 明日も元気で来いよ！



弥生、三月を迎えました。いよいよ卒業式まで19日。6年生が登校するのは、実質12日です。そして、今日は茶話会。心に残る一日になればよいと願っています。

今月の玄関掲示は、左の通りです。春は、別れと出会いの季節。6年生との惜別の後、4月になれば、新1年生との出会いが待っ

ています。まずは、卒業式。6年生の卒業を祝い、心を込めて、送り出したと願っています。

素材は、ご存知のタンポポです。茎の両端を細かく裂くと、そり返って鼓のような形になることから、別名を「鼓草（つづみぐさ）」といいます。また、「タンポポ」の名は、この鼓をたたいたときの音の「タン、ポンポン」からつけられたとも言われているそうです。

タンポポには、いくつかの種類があります。多く見られるのは、西洋タンポポです。

タンポポは、風に吹かれてふわふわ揺れる柔軟さを持っています。しかも、そう簡単には倒れることなく、踏まれてもまた起き上がる強さももっています。小学校を巣立っていく6年生にもぜひこんな柔軟さと粘り強さをもってほしいと思います。

今回のクイズは、「タンポポの英語名は？」です。

**正解** 英語名は「ダンデライオン」です。

”ライオンの歯”という意味だそうで、葉のギザギザをライオンの歯に例えたという説があります。

校長室の入口に右のような正解カードを掲示しました。いつものように、正解した子どもには、カードをプレゼントします。



25号で紹介した「最後だとわかっていたなら」の詩の訳本を5年生のUさんが持ってきてくれました。本の最後に、翻訳者の佐川さんが、次のように書いておられます。一部を引用します。

(サンクチュアリ出版 作・ノーマ コーネット マレック / 訳・佐川 睦)

—「ごめんね」や「許してね」や「ありがとう」や「気にしないで」を伝える時を持とう

この詩をはじめて読んだ時、亡くなった姉がわたしに語りかけているような気がした。……姉を天に送った後、わたしを常に苦しめたのは後悔だった。「あれもしてあげればよかった」「これでもできたはずだ」という思いは尽きることなくあふれて、わたしを責めた。もっとできた。もっともったできたはずだ。足りなかったんだ。……大切な人をなくして、後悔しない人なんているのだろうか……。後悔がまったく消えることはないのかもしれない。でも、自分が後悔しないためではなく、大切な人への思いを素直に伝えて、その人の今日1日を、自身の今日1日を最高に幸せでかけがえのないものにするために、わたしはこれからも心からの思いや言葉を態度で表していきたいと思う。……佐川 睦

もうすぐ、3月11日。東日本大震災から7年が過ぎようとしています。今年も、この詩に涙する人がたくさんいることだと思います。もう一度、この詩を読みかえし、心に刻み込んでおきたい。佐川さんの「おわりに」を読んで、そう思いました。